

たたら製鉄を次代に

一関・大東 大原小が体験学習

一関市大東町の大原町内野地区の砂鉄川た小(小島正明校長、児童152人)の6年生25人は10日、同市大東



炎を上げるたたら炉に木炭と砂鉄を投入する大原小の6年生

った地域の歴史文化を
所に設置したたたら炉
画。同会が屋内外2方
(勝部昌平会長)が企
取り組むホッパの会
元でたたら製鉄伝承に
旧内野小から通算17
学んだ。

に、児童たちが7月に
砂鉄川から採取した砂
鉄と木炭を投入した。
炉は約6時間後に解体
し、「ケラ」と呼ばれ
る鉄の塊を取り出し
た。
炎を上げ、内部は1
300度にもなる炉を
間近に、加藤尚君はす
ごく熱い。昔の人の苦
労が分かった」と汗を
拭い、中津瞳さんは「自
業に参加した。
勝部会長(72)は「砂
鉄産地として、平泉文
化から明治のころま
で鉄作りは脈々と受け
継がれてきた。ここで
しかできない体験で、
子どもたちが地域の
自然や歴史、文化に関
心を持つきっかけに
なしてほしい」と願っ
た。